

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	平成 30 年3月11日	評価結果市町村受理日	平成 30 年 4 月 18 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0197400021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は町内会に加入しており、長寿クラブ(老人クラブ)との交流、近隣の小学校、保育園等のボランティア受け入れを1階併設施設と毎回行っている。</p> <p>・利用者様の個別の買い物や外出等については随時対応をさせていただき、社会との繋がりがや金銭的支払いを行うとの意義を理解した上で、日常生活の一部として捉えている。また、利用者様の嗜好品や必要な物があれば、町内の商店に注文して揃えることが可能なため、地域と顔の見える環境作りにも努めている。</p> <p>・当施設内で『出来る事』『出来ない事』を明確にしており、今現在、人工透析の利用者様はいないが、今まで人工透析の受け入れの実績がある。入居後は医療との連携を密に行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は閑静な住宅地にあつて、遠くに暑寒別岳を望むことが出来、近くには銀杏並木や小公園があつて、四季の移り変わりを感じながら散歩などを楽しむことができる恵まれた地にある。鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホーム、1階には介護付有料老人ホームがあり、避難訓練、夏祭りなどの行事を連携して行って、利用者同士馴染みの関係を築くと共に事例を共有して質の向上に努めている。3階にはイベント用のホールがあり、長寿クラブが来訪して歌や踊りを披露して交流している。町内会に加入し、職員と利用者は町内会主催の焼肉会などに参加し、音江神社祭りには神輿が事業所に立ち寄り、保育園児が来訪して交流している。居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、温・湿度・音などは適正に管理され、利用者は職員に見守られながら、新聞を読んだり、テレビを見たり、ぬり絵をしたりして思い思いに過ごしている。職員は利用者個々の健康状態を把握して、体操や散歩、日光浴など、無理強いないようにして、体調が悪くならないよう気をつけ、機能訓練や自発性を引き出すケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から4つの理念は変えておらず、職員が実践すべき方向性を表現し、実践に繋がっている。また、自己評価を通じて、理念に対しての個々の反省には至っていない。	運営理念と介護理念を各ユニットに提示し、毎朝唱和して職員全員が理念を共有しながらケアに活かしている。	事業所開設(平成19年12月)から10年を経過し、地域や利用者のニーズなども変化している。地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、現状にあった事業所理念に作り変えていく事を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人員不足の状況があり、町内の老人クラブの参加ができていない。町内の小学校、保育園との交流、ボランティアは現在も受け入れている。	町内会の焼肉会などに参加し、神社の祭りには神輿が事業所に立ち寄っている。長寿クラブが来訪して歌や踊りを披露し、小学生、保育園児が来訪するなど地域との交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状認知症関連の役員にはなっておらず、今後対応を検討していく。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括・地域住民・家族等が参加して、多数の視点からアドバイスをいただき、その席上での発言について、臨機応変に対応している。	年6回開催し、町内会長、長寿クラブ会長、市福祉課職員、家族代表などが出席して、活動報告、行事、事故報告、意見発表などを行って、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域包括、介護保険係との連携を行っており、運営推進会議や地域ケア会議などを活用して、顔の見える関係作りに取り組んでいる。	市福祉課を訪れ、書類の提出や運営状況を報告し、指導、助言、情報を得ている。運営推進会議、地域ケア会議参加時に指導、助言を得たり、情報交換を行い協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は基本夜間のみとしているが、入居者の状態等によっては昼間も一時的に施錠する場合がある。不適切ケアを含める身体拘束廃止についての勉強会は出来ておらず、今後の課題である。	身体拘束マニュアルのほか、不適切な行動や言葉があればその都度職員同士で注意できるように情報を共有して、身体拘束をしないケアに努めている。出入り口にはセンサーが設置され、出入りは職員が連携して見守りを行っている。深川市SOSネットワークに登録して徘徊の状態になった場合の地域との協力関係を築いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で口頭で伝えていくなど、常時全職員が意識して防止に努めるようにしているが、今後外部研修などで学ぶ様対応していく。			

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については活用するケース今現在ないが、内容を理解できている職員、わからない職員もいるため、今後研修等で学ぶ機会を持つていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退去時、文書と口頭にて時間をかけながら説明を行い、同意を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等は一部の家族しかないが日常の訪問の際にリラックスした雰囲気家族の気持ちを汲み意向を尊重できるように努めている。	日常の会話などから利用者の要望などの把握に努め、家族等の意見、要望は、面会時や運営推進会議参加時、電話連絡時に聞く様に努めて、要望があるときはスタッフ会議で取り上げ検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を窓口にし、日常的に意見や疑問を聞いていただき、本社へ繋げている。担当者により必要な物品などの購入を促し、少なからず反映している。	職員からの意見や要望等がオープンに言える環境で、管理者は、日常の会話や会議で意見や提案を聞いて検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者を通じて勤怠状況等を本社にも伝えて全体で把握に努めている。休みやシフト変更など現場で相談し柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は案内を告知するが、参加、不参加とバラつきがある。今後順番に参加できるように努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との情報交換はできておらず、交流をもとに意見交換などの機会を作っていく。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をしていただき、必要に応じて面談を行うなどをして、入居後の混乱や不安の解消、不安なく生活できるよう、本人に寄り添うことを意識した係わりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階で概ね聞き取りをしている。常時相談できる雰囲気作りや関係確保、大小問わずこまめに近況報告を行うことで安心感を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時や待機中の状況確認の際にはご本人やご家族が困っている事柄を把握し、その事柄が少しでも緩和できるよう、受診の相談をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活を尊厳し、本人の望む活動を把握できるように話し合いの場を設けている。ご本人の力が少しでも長く維持できるような活動をご本人やご家族に提案しながらプランを提供している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、外泊は基本自由としている。電話に関しても機会は少ないがご家族の事情も考慮しながら行っている。面会時には近況報告を伝えることでご家族と情報を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様本人から希望を言葉にする為、それに合わせてスタッフが対応し、馴染みのある場所や知人との交流(電話・外泊等)を続けていけるように努めている。	買物に行ったり、家族と一緒に自宅で過ごしたり、墓参りや外食に出かけている。理容及び理髪は月1回の訪問があり、また、他美容院への送迎支援をしている。面会者にはゆっくりと会話ができる環境を提供するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状によって孤立を生みやすい環境となりがちな為、特に入居者同士の関係性の把握について強く意識している。スタッフが間を取り持ち係わりの時間を意識することで関係性の維持に努めていきたい。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後はほとんど接点なくなる為、相談や支援には至っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々によっては言葉や表情・態度などから利用者様の思いを汲み取り、把握に努めている。	日常のコミュニケーション、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を日々のミーティングで共有し、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ご本人、ご家族から入居前の生活歴を聞き取り書面にしてスタッフ間に周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕方の引き継ぎで話し合いを行い、決まったことについては連絡帳に記載し、その場にいなかったスタッフにも周知できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から聞き取った情報やスタッフ間で共有している情報を元に現状に即した介護計画を作成している。	利用者と家族の意向を反映させて、毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議、全体会議で意見交換して、短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては記録内容に差が見られ、気づきや工夫、アセスメントに繋がる記録には至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や入・退院時の送迎等、日中・夜間に関わらずその時々状況に合わせた柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々老人クラブの参加や近隣の商店に注文しホームと繋がりがちな社会資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人やご家族の意向を伺いながら基本的にかかりつけ医だが、病状や症状により別の病院にかかる等、適切な医療を受けられるよう努めている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診には職員が付き添い、通院報告書を作成して、結果を家族に電話で報告している。	

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護職員を配置しておらず、症状の状況によって利用者様かかりつけの病院に相談し指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には情報提供表や口頭にて気になるご本人の状況について報告している。面会の際にもご本人の入院状況を看護師より聞き取りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として”できる事””できない事”については重要事項説明書等の他に口頭での説明を行っている。症状の変化等によって改めてご家族に説明し理解を得ている。他施設への紹介には至っていない。	入所時に利用者、家族に、重度化した場合における事業所で出来るサービス内容と範囲を説明し同意を得ている。利用者に医療行為の発生や食事の摂取など状況変化が有る時は早い段階で利用者、家族、主治医を含め相談し、入院など希望に添うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	概ね訓練は受けれているが、定期的な実施とまでは至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との避難訓練を実施しており、各利用者様の誘導方法など話し合いを行っているが、今後も継続に努めている。	1階併設事業所(統括防火管理者)と合同で、避難訓練を年2回(夜間想定1回)、消防署の指導、運営推進会議参加者や地域住民の参加を得て実施している。一時避難場所(小学校)を指定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴等での羞恥心が伴う場面では同姓介助の対応など事前の声掛けや小声で声掛けをする等で不安がない様に工夫し努めている。	トイレなどの声掛けに気をつけて、一人ひとりの気持ちを大切に、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。職員は不適切な言葉があればその都度お互いに注意をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の嗜好や生活歴、施設での暮らしぶりなどで判断し、本人本位に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別日課などは決めていないため、穏やかな時間の流れに沿って個人個人のペースを大切にしている。外出等の希望があれば都度対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	翌日に着る服を数着用意してご本人様に決めてもらい、理美容については、パーマ、カラーリングなど希望に沿っている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けの一連の流れの中で各利用者様が活躍できる場面を演出しており継続に努めている。	献立は法人本部が業者に委託し、食材は配達される。調理は職員が行い利用者に合わせて形状や味付けをしている。利用者は能力に合わせてできる範囲で調理、茶碗洗い、下膳などを行っている。季節に合わせて献立や家族と一緒に外食に出かけるなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分など1日トータルで考え、身体状況やご本人の希望に応じてお粥や嗜好品の提供、形態の工夫に取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めており、必要に応じて歯科往診・通院で義歯調整や口腔衛生の維持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやリハビリパンツを使用しているだけにとらわれず、時間でトイレでの排泄に努めている。また、オムツについては安眠の為の対応として使用の場面が限られている。	排泄チェック表、表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレや個々によっては乳製品を接種していただく等して、自然に排便に繋がるよう努めている。下剤服用者については、排便の状況に応じて量を調節している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の固定はあるが、最低週2回の入浴ができるようにし、個別に音楽を流す等してリラックスした環境作りに努めている。	週2回の入浴を基本とし、希望があれば週に何回でも入浴できる。週に5回入浴している利用者もいる。希望に合わせて入浴剤を入れたり、音楽を流すなどして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後問わずその時の体調や気分に合わせて休息をとってもらっている。また、夜間の睡眠に支障がないように配慮し、中途覚醒の際は混乱が起きないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬については概ね把握しており、いつでも確認できるようにファイリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰している宗教の継続、朝刊の継続など入居前からの生活習慣を大切にできるよう支援している。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいときにタイミングとし、業務や職員の調整を行いながら、戸外に外出できるように努めている。	散歩に行ったり、ベンチでの日光浴、ガーデニング作り、買物、家族と一緒に外出するなど、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者に限られるが、金銭の支払いを行っている。また、必要に応じて支払いがスムーズにいくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って自由に電話を掛けられるようにしている。希望に応じて手紙を出す支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は適度な生活音が響くように配慮し、不快や混乱を招かないよう取り組んでいる。	居間、食堂は一体的で、大きな窓から陽が入り明るく、温・湿度は適正に調整され、利用者の作品(ぬり絵、フラワーペーパーなど)を掲示し、季節に合わせた飾付けをして、食事時には音楽を流して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に相談室があるが使用していない。共用スペースにすることが主である。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込む、使うことの必要性を見学の段階で説明し、可能な限り持ち込んでもらっている。	洗面台が備え付けられ、使い慣れた家具、テレビ、仏壇などを持ち込み、家族の写真等を貼って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しい入居者については、ユニット内での「トイレ」「自身の食卓席」などはわかるように工夫している。		